

中野市

社会教育系施設個別施設計画

(令和8年度～令和 17 年度)

令和8年3月 策定

長野県中野市

目次

第1章 個別施設計画策定の目的と計画期間	
1 計画策定の目的	1
2 計画期間	1
第2章 個別施設計画を取り巻く現状と課題	
1 市有施設の状況	2
2 対象施設	2
3 施設の管理運営に掛かる経費及び利用状況	3
4 基本的な方針	4
5 「今後の方針」について	4
第3章 対策の優先度の考え方	
1 対策の優先度の考え方	6
2 対策の実施方法	6
第4章 対策内容と実施時期	
1 対策内容の考え方	6
2 対策の優先度	7
3 対策費用	7

第1章 個別施設計画策定の目的と計画期間

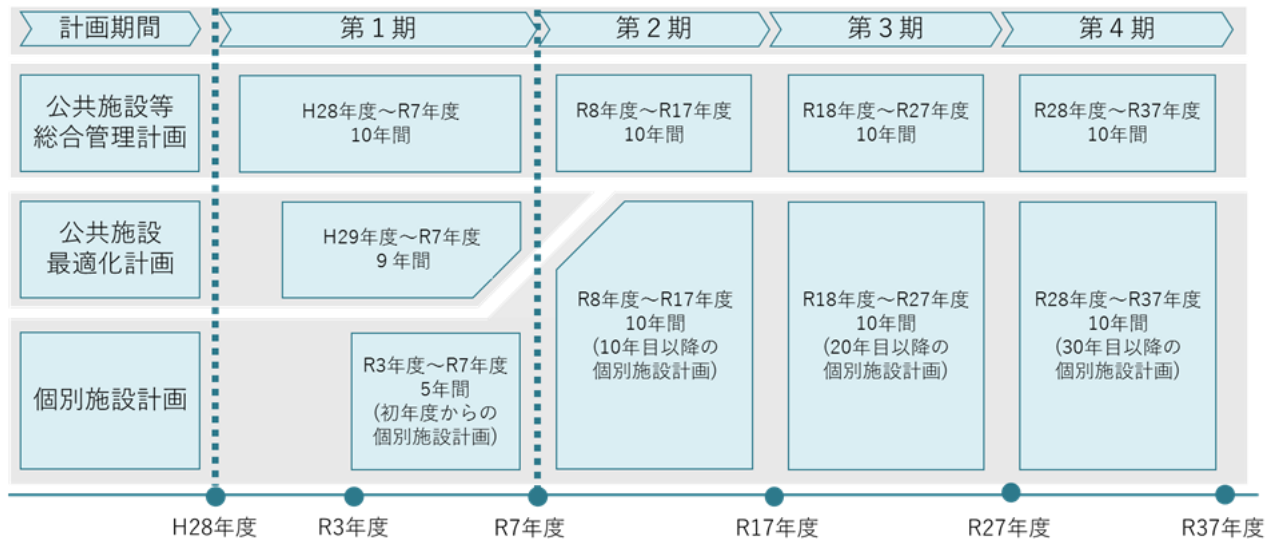
1 計画策定の背景と目的

本計画は、「中野市公共施設等総合管理計画」（以下、「総合管理計画」という。）の目的を実現するために、施設ごとに今後の具体的な対応方針を定めるものです。

2 計画期間

本計画の計画期間は、上位計画である総合管理計画の計画終了年度とあわせ令和8年度から令和17年度までとします。

また、公共施設の計画的な施設管理には長期的に取り組む必要があることから、第1～4期に分け、第2期以降、10年ごとに個別施設計画の見直しを行います。（既存計画等に従い進めるものは、この限りではありません。）



第2章 個別施設計画を取り巻く現状と課題

1 市有施設の状況

令和7年4月1日現在で本市が保有する公共施設は259施設、452棟、延床面積（総量）は185,403.88㎡となります。最も広いのは学校教育系施設で76,746.98㎡（41.4%）、次いで子育て支援施設で16,854.97㎡（9.1%）市営住宅で16,202.09㎡（8.7%）になります。

公共施設の多くは、昭和40年代から平成にかけて建設されました。築50年以上を経過する建物も90棟あり、生産年齢人口が減少する中、全ての建物を更新することは難しい状況です。

2 対象施設

本計画で対象とする施設は、大分類「社会教育系施設」を対象とし、施設類型ごとに記述します。

施設の状況については、現地における目視等で点検した当該施設の劣化状況について示しています。

状態	内 容
A	概ね良好
B	局所、部分的に劣化が見られるが、安全上、機能上、問題なし
C	随所、広範囲に劣化が見られ、安全上・機能上の低下の兆しが見られる。
D	随所、広範囲に著しい劣化が見られ、安全上、機能上、問題があり、早急に対応する必要がある。

表：対象施設一覧表（図書館）

施設名	耐震	棟名	建築年	構造	階数	延床面積	状態
市立図書館	有	市立図書館	H4	RC	2/0	2,699.55 ㎡	B
市立図書館北部分館	有	北部公民館	S62	S	2/0	70.75 ㎡	B
市立図書館西部分館	有	西部文化センター・西部公民館	H3	S	2/0	65.45 ㎡	B
市立図書館豊田分館	有	豊田文化センター・豊田公民館	H9	SRC	2/0	150.00 ㎡	B

※(未)は、耐震診断未了の意

※延床面積は（R7.4）のもの

表：対象施設一覧表（博物館等）

施設名	耐震	棟名	建築年	構造	階数	延床面積	状態
市立博物館	有	博物館	H3	RC	3/0	2,007.87 ㎡	B
	有	収蔵庫（プレハブ）	H9	LS	2/0	119.08 ㎡	B
中山晋平記念館	有	本館	S62	RC	1/0	430.45 ㎡	B
	有	休憩所	S58	W	1/0	55.08 ㎡	B
	有	物置	H18	W	1/0	25.20 ㎡	A
	有	屋外トイレ	S62	W	1/0	43.74 ㎡	C

施設名	耐震	棟名	建築年	構造	階数	延床面積	状態
高野辰之記念館	有	記念館	H3	W	2/0	758.01 m ²	B
	有	屋外トイレ	H4	W	1/0	23.89 m ²	A
旧山田家住宅	無	奥座敷	M23	W	1/0	47.00 m ²	B
	無	新座敷	S28	W	1/0	30.00 m ²	A
	無	質蔵及び文庫蔵	1848	不明	2/0	76.00 m ²	B
	無	裏門・台所味噌蔵及び事務所	M13	W	2/0	87.00 m ²	B
	無	隅蔵	1860	W	1/0	54.00 m ²	B
	無	六間蔵及び二間蔵	M13	W	1/0	139.00 m ²	A
	無	酒売場	M23	W	1/0	128.00 m ²	B
	無	馬小屋・徳塀・庭園等	S28	W	1/0	26.44 m ²	C
無	主屋・離れ	S47	W	2/0	328.90 m ²	B	

※(未)は、耐震診断未了の意

※延床面積は (R7.4) のもの

3 施設の管理運営に掛かる経費及び利用状況

表：管理運営経費情報一覧表（図書館）

施設名	歳入（千円）				歳出（千円）				
	補助金	使用料 手数料	その他	計	光熱 水費	維持 保全費	使用料 賃借料	人件費	計
市立図書館	0	129	3,517	3,645	6,392	87,569	89	23,713	117,763
市立図書館北部分館	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市立図書館西部分館	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市立図書館豊田分館	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※R4～R6年度のデータの平均値を使用しています。

表：管理運営経費情報一覧表（博物館等）

施設名	歳入（千円）				歳出（千円）				
	補助金	使用料 手数料	その他	計	光熱 水費	維持 保全費	使用料 賃借料	人件費	計
市立博物館	0	1,268	2,307	3,575	5,810	27,253	0	19,357	52,420
中山晋平記念館	0	1,567	3,276	4,843	1,636	11,933	3,060	10,394	27,023
高野辰之記念館	0	1,034	2,937	3,971	1,484	7,454	64	9,456	18,458
旧山田家住宅	4,558	16	2,167	6,741	222	16,495	25	2,286	19,028

※R4～R6年度のデータの平均値を使用しています。

表：施設利用者情報一覧表（図書館）

施設名	年間開館日数	利用者数	稼働率	利用者1人 当たりコスト	床面積1㎡ 当たりコスト
市立図書館	286日	106,894人	100.0%	1,085円/人	43,623円/㎡
市立図書館北部分館	102日	536人	100.0%	-	-
市立図書館西部分館	100日	326人	100.0%	-	-
市立図書館豊田分館	309日	4,010人	100.0%	-	-

※R4～R6年度のデータの平均値を使用しています。

表：施設利用者情報一覧表（博物館等）

施設名	年間開館日数	利用者数	稼働率	利用者1人 当たりコスト	床面積1㎡ 当たりコスト
市立博物館	310日	7,591人	84.9%	6,905円/人	26,107円/㎡
中山晋平記念館	344日	7,233人	94.2%	3,737円/人	49,632円/㎡
高野辰之記念館	344日	5,190人	94.2%	3,557円/人	23,023円/㎡
旧山田家住宅	310日	312人	29.0%	60,987円/人	20,765円/㎡

※R4～R6年度のデータの平均値を使用しています。

※旧山田家住宅は開館したR6年度のデータを使用しています。

4 基本的な方針

図書館、博物館等については、更なる利用者の利便性、サービスの向上につながるよう、複合化や民間活力の活用も含め、施設のあり方を考えていく必要があります。管理運営方法の見直しや廃止を検討します。

5 「今後の方針」について

施設の方針を「機能（ソフト）」と「建物（ハード）」に分けて、それぞれ検討します。

各方針については、施設の健全度や施設機能、利用状況などを考慮しながら、今後の方針を設定します。

施設	方針	内容
機能 (ソフト)	現状維持	公共施設の機能として維持
	複合化	複数の機能を持つ施設に変更
	統合	同じ機能の施設を一つに集約
	廃止	公共による事業の終了
	転用	施設の機能を異なる機能に変更
	移転	施設の機能を他の施設に移転
	検討継続	施設のあり方の検討

建物 (ハード)	現状維持	施設を維持
	取壊し	施設を解体
	建替え・新設	施設を解体し、新たに建替え又は新設
	改修	施設の改修と修繕
	譲渡・貸付	施設を譲渡又は貸付
	返還	施設を所有者へ返還
	検討継続	施設のあり方の検討

表：公共施設の施設類型ごとの管理に関する基本的な方針

施設類型	施設名	棟名	R7.4現在 延床面積	今後の方針		縮減面積	完了 予定	R8.3現在 延床面積	取組の内容
				機能	建物				
図書館	市立図書館	市立図書館	2,699.55㎡	現状維持	現状維持	-	-	2,699.55㎡	
	市立図書館北部分館	北部公民館	70.75㎡	現状維持	現状維持	-	-	70.75㎡	
	市立図書館西部分館	西武文化センター・西部公民館	65.45㎡	現状維持	現状維持	-	-	65.45㎡	
	市立図書館豊田分館	豊田文化センター・豊田公民館	150.00㎡	現状維持	現状維持	-	-	150.00㎡	
博物館等	市立博物館	博物館	2,007.87㎡	現状維持	現状維持	-	-	2,007.87㎡	
		収蔵庫（プレハブ）	119.08㎡	現状維持	現状維持	-	-	119.08㎡	
	中山晋平記念館	本館	430.45㎡	現状維持	現状維持	-	-	430.45㎡	
		休憩所	55.08㎡	検討継続	検討継続	-	-	55.08㎡	あり方の検討
		物置	25.20㎡	現状維持	現状維持	-	-	25.20㎡	
		屋外トイレ	43.74㎡	現状維持	現状維持	-	-	43.74㎡	
	高野辰之記念館	記念館	758.01㎡	現状維持	現状維持	-	-	758.01㎡	
		屋外トイレ	23.89㎡	現状維持	現状維持	-	-	23.89㎡	
	旧山田家住宅	奥座敷	47.00㎡	現状維持	現状維持	-	-	47.00㎡	
		新座敷	30.00㎡	現状維持	現状維持	-	-	30.00㎡	
		眞蔵及び文庫蔵	76.00㎡	現状維持	現状維持	-	-	76.00㎡	
		裏門・台所味噌蔵及び事務所	87.00㎡	現状維持	現状維持	-	-	87.00㎡	
		隅蔵	54.00㎡	現状維持	現状維持	-	-	54.00㎡	
		六間蔵及び二間蔵	139.00㎡	現状維持	現状維持	-	-	139.00㎡	
酒売場		128.00㎡	現状維持	現状維持	-	-	128.00㎡		
馬小屋・徳塀・庭園等		26.44㎡	現状維持	現状維持	-	-	26.44㎡		
	主屋・離れ	328.90㎡	現状維持	現状維持	-	-	328.90㎡		

表：令和7年4月1日から令和8年3月末までに縮減した面積

施設類型	施設名	棟名	R7.3現在 延床面積	機能	建物	縮減面積	完了 予定	R8.3現在 延床面積	取組の内容

第3章 対策の優先度の考え方

1 対策の優先度の考え方

個別施設の状態（施設の損傷及び部材や材料の劣化の状況やその要因等）の他、当該施設が果たしている役割、機能、重要性等を考慮し、対策の優先度を明確にします。ただし、優先度については、施設の今後の方針や施設状況、社会情勢から、総合的に判断しながら柔軟に対応します。

〔優先度の考え方〕

- ① 本計画 第2章 表：公共施設の施設類型ごとの管理に関する基本的な方針
- ② 施設の状態（第2章に記載）
- ③ 利用状況（第2章に記載）

2 対策の実施方法

本計画に基づき定期的に点検・診断、修繕を行い、施設の継続的な維持管理を実施するため、計画、実行、検証、改善のPDCAサイクルにより安全で快適な施設の維持管理に努めます。

第4章 対策内容と実施時期

1 対策内容の考え方

公共施設等の機能を維持するうえで必要となるメンテナンスは、施設の規模、設置環境、利用状況等によって大きく異なり、過度な対応は管理経費の増大を招き、過小な対応は機能の維持や利用者の安全確保に支障を来す可能性があります。

維持管理に当たっては、各施設の設置環境や利用状況を分析し、将来必要となる機能や、それを維持し続けるためのメンテナンスサイクルを構築するための管理基準として、今後も維持する公共施設については「中野市公共施設保全ガイドライン」に基づき、非木造施設は80年、木造施設は60年を目標使用年数として、定期的な点検、診断を実施し、計画的な維持補修によって長寿命化を推進します。

既存施設の更新に際しては、その施設のニーズを精査し、将来の負担を増やさないためにも必要な施設のみ更新をします。

構造別の目標使用年数

構造種別	目標使用年数
SRC(鉄骨鉄筋コンクリート造)、RC(鉄筋コンクリート造)、PC	80年
S(鉄骨造)、CB(コンクリートブロック)	80年
LS(軽量鉄骨造)、W(木造)	60年

2 対策の優先度

第4章の考え方を基本に、各施設の対策優先度を定め、順位の高い施設から必要な措置を講じます。

表：対策優先度一覧表（図書館）

優先度	施設名	実施内容
1	市立図書館	令和8年度に自動ドア更新工事を実施する。 令和9年度に屋根改修工事を実施する。
2	市立図書館豊田分館	建物の健全度が保たれており、点検等を実施し必要な修繕を行う。
3	市立図書館西部分館	建物の健全度が保たれており、点検等を実施し必要な修繕を行う。
4	市立図書館北部分館	施設機能を維持するため、定期的に点検等を実施し、劣化の有無や兆候を可能な限り確認し、計画的に修繕等を行うことで長寿命化を図る。

表：対策優先度一覧表（博物館等）

優先度	施設名	実施内容
1	市立博物館	施設機能を維持するため、定期的に点検等を実施し、計画的に修繕等を行うことで長寿命化を図る。（空調設備更新済）
2	高野辰之記念館	施設機能を維持するため、定期的に点検等を実施し、劣化の有無や兆候を可能な限り確認し、計画的に修繕等を行うことで長寿命化を図る。
3	中山晋平記念館	施設機能を維持するため、定期的に点検等を実施し、劣化の有無や兆候を可能な限り確認し、計画的に修繕等を行うことで長寿命化を図る。
4	旧山田家住宅	施設機能を維持するため、定期的に点検等を実施し、劣化の有無や兆候を可能な限り確認し、計画的に修繕等を行うことで長寿命化を図る。

3 対策費用

費用の算出については、第1次計画の数値を基礎としているが、近年の建設資材価格の高騰や労務費の上昇、施設の劣化状況の変化を反映させるため、その都度費用算出するものとする。